

昭和45年2月

平城宮発掘調査出土木簡概報(七)

奈良国立文化財研究所

この概報はさきに公刊した「平城宮跡発掘調査木簡概報六」(昭和四十四年三月)以後、平城宮跡および奈良バイパス路線敷地の発掘調査で出土した木簡についてその主要なものを収録した。平城宮跡内では第2次朝堂院の東北に接する第35次調査区域から陰陽寮に関連する木簡が出土し、又奈良バイパス路線敷地の調査は第55・56・57次調査として行なわれ、二条の溝より木簡が検出された。総計二〇三余点である。

一、不簡出土の地点と状況

第35次調査 (SAATH・SAATH区)

この調査は第2次朝堂院・大極殿東外郭大垣の部分で行った。調査区は外郭大垣の内方とその外方との部分にわかれる。外郭大垣は大極殿回廊東南隅から東へ延び、さらに北に直角に折れ第33次調査で検出した内裏外郭築地にとりつく。この結果、大極殿外郭大垣は東西約300尺、南北約330尺であることが明らかとなった。南面大垣の中央には門 (SBH500)があり、その内方に礎石建物 (SBH4500) を検出した。東楼と推

定される。東面大垣の内側には建物を撤去した際の平瓦・丸瓦400枚以上、軒平・丸瓦1700点が並置されていた。

外郭大垣の外方は一段低くなる。検出した遺構は門に続く道路・井戸・東面大垣の外方に集中する堀立柱建物・柵などである。

木簡は南面大垣の南側にある井戸の周辺に点在する小土抔 (SBH4500)及びその上部の堆積土から出土した。木簡は陰陽寮に関するものが多く、平安宮大内裏図にみえる陰陽寮の位置関係とほぼ同じであることが注意される。

第55・56・57次調査 (SAATH区)

第55・56・57次発掘調査は国道24号線バイパス(通称奈良バイパス)建設にともなって、その路線敷地内の一部、平城京左京一条三坊の東北部と東三坊大路で行なった。検出した遺構は古墳二基と奈良・平安時代の建物・柵・溝・井戸および庭園跡等であった。このうち木簡が出土した遺構は次の二条の溝である。この溝のD480は55次および56次発掘調査区域にまたが

って検出され、奈良時代初頭から後半にかけて使用されたものである。溝は第55次発掘調査区域では西から東へ流れたものが途中で南へまがり、第56次発掘調査区域で平塚2号墳の濠にながれこんでいる。出土木簡の中で、もっとも古い年号は和銅六年である。また墨書土器には「尼家」「□由加和銅□□正月十三日」と記したものが出土している。

溝のD550は第57次発掘調査区域で検出された東三坊大路の東側溝で、九世紀前半に改修され、その後十世紀初頭までに三層の堆積がある。木簡は最下層から出土している。

顕著な木簡としては道路わきにたてたとされる牛馬をさがした告知板が4点出土している。そのうち1点は天長5年の年号をもつ。他の遺物としては日常什器に緑釉や灰釉をほどこした陶器・銅銭・木器・漆器・金属器等が多量に出土した。日常什器に施釉したものは十世紀初めに始まり中葉以降隆盛したといわれてきたが、今回の出土で九世紀代までさかのぼる可能性が生じた。また銅銭は皇朝十二銭のうち乾元大宝をのぞく他の十一種すべてが出土し、計六百余点にのぼった。

このように平安時代前半の遺物が多量に出土したことは三坊大路が平安時代にはいつても頻繁に使用されていたことを物語っている。

二、木簡の形態分類

9011型式 短冊形

9015型式 短冊形で、側面に孔を穿ったもの。

9016型式 短冊形と推定できるもの

9021型式 小型矩形のもの

9022型式 小型矩形の材の一端を圭頭にしたもの。

9031型式 長方形の材の両端左右に切りこみをいれたもの。

9032型式 長方形の材の一端の左右に切りこみをいれたもの。

9033型式 長方形の材の一端の左右に切りこみをいれ、他端を尖らせたもの。

9034型式 長方形の材の一端の左右に切りこみがあるが、他端は折損あるいは腐蝕して不明のもの。

9035型式

9036型式

9037型式

不明のもの。

SL
42
081

「大政内礼礼主」

大養徳国大

SL
42
081

「十把卅」
「廿八把二」
「伊麻婆礼」

SL
42
081

「廿五日小三卷即本受一卷十日」

SL
42
081

「十六日三卷」

SL
42
081

「日一卷」

SM
42
081

「卷上」

SL
42
091

「上行少属」

SL
42
081

「石川由惠万吕」

SL
42
091

「祢武惠麻吕」

SL
42
081

「宿祢高額」

SM
41
081

「上麻吕」

SL
42
011

「額田美」

「陰陽」
「當」

「城」

SM
41
081

「勝勝勝勝之」

「勝勝」

「(裏)

SL
42
081

「諸者論論」

「(伏)

SL
42
081

「論論」

「」

SL
42
019

「 歳 歳 歳 歳 ^(處)」

歳 歳

^(解)

諸 諸 伏

伏 伏

^(伏)

^(解)

SM
41
032

「近江國兼田價錢 ^(處)」

^(天)

6AFB-SD485

IA
29
081

「樂毅論 夏」

^(毅) ^(論)

HS
25
039

「 ^(官) 奴婢食新米一斛」

HQ
23
081

「參河國青 」

^(安) ^(得) 米

H0
26
039

「參河國 ^(多) 郡鴨田郷厚石里 」

HR
26
031

「參河國額田郡謂我郷白米五斗」

HP
25
059

「八名郡多米里多米マ ^(磨) 庸米五 ^(斗) 和銅六年」

HQ
24
081

「參河國八名郡片山里大 庸米五斗 和銅六年」

HQ
24
081

「參河國八 戸主若 ^(目) ^(下) 部馬 」

HP
24
081

「參河國 里 和銅六年十 ^(月)」

H0
26
031

「丹波國船井郡出廠郷曾尼里秦人 ^(吾) 米」

HT
25
032

「吉備里海マ赤麻呂米六斗 靈龜三年六月」

HP
25
081

HR
25
081

HT
26
033

HR
25
081

HQ
21
019

HQ
24
081

HT
25
032

王
 ア

 田郡
 (嶋カ)

丸子

嶋三斗五升
 石村

塩三斗

良五
 (國カ)

老七年七月十八日
 郷中
 里
 (マカ)

淡路國津名郡賀茂里人
 夫
 同
 中
 臣
 山
 嶋
 庸
 米
 米
 三斗
 并六斗
 (母カ)
 (部)
 (扇カ)

DG
0
031

CA
10
061

HT
25
081

HQ
25
065

IX
28
081

別當殿

人々
 前

6AFB-SD650

城城城城
 找找

成識
 飛
 飛
 景景
 景景
 木凡
 (標)

相早
 飛
 首不用
 子
 子
 子
 弟卅言倚棕
 (不)
 (葛カ)
 (想カ)

保
 長
 木

CS
10
051

告知 往還諸人 走失黑麻毛牡馬一匹
在驗片目白 額少白

件馬以今月六日申時山階寺南花蘭池邊而走失也 九月八日

若有見捉者可告末山階寺中室自南端第三房

└

EK
10
051

告知 捉立麻毛牡馬一匹

右馬以今月一日辰時依佐物食損捉立也而于今日未來其主

額髮

馬 可末

天長五年四月四日

└

EK
10
051

告知

(被盜)

斑牡牛一頭

誌左右本

(瓜) 在歲六許

應告賜山邊郡長屋井門村

右牛以十一月卅 聞給人益堅必之可告給

└

CS
10
081

告知 往 └

木簡出土地点略图

